

2012年度 東京の区市町村消費者行政調査の 取り組み「報告・交流会」

報告

—消費者行政の充実と、さらなるつながりづくりに向けて！—



司会

根本 かおるさん
(新日本婦人の会
東京都本部)

日時 2013年3月5日(火)

会場 東京都生協連会館

参加者 106名(行政・消費者庁10名、消費者団体19名、
生協組合員・職員76名、その他1名)

主催 東京消費者団体連絡センター・東京都生協連 消費者行政連絡会

スケジュール

- 13:30 開会挨拶 竹内 誠(東京都生協連 専務理事)
- 13:35 2012年度の取り組み報告と2013年度の取り組みについて
矢野 洋子(東京消費者団体連絡センター 事務局長)
- 14:00 行政担当者・懇談参加者からのリレートーク(2自治体・3団体)
- 14:55 休憩
- 15:00 ワークショップ(14グループに分かれて)
- 15:40 ワークショップの発表(7グループより)
- 15:55 閉会挨拶 小浦 道子(コープとうきょう 理事)



開会挨拶



東京都生協連
竹内専務

各自治体に何って懇談する消費者行政調査・懇談も今年で3年目。参加者も昨年より大幅に増え、関心の高まりを感じます。自治体の消費者行政や施策を直接聞くことは住んでいる町を良くしていこうとする気持ちにつながります。自治体の方たちも初めは構えておられたかもしれませんが、消費者に関心を持ってもらう大切なこととわかっていただき、協力してもらえると意識が変わってきたのではと思います。一緒になってよい町を作っていけるといいです。今日は消費者庁の方も参加されています。なかなか減らない消費者被害についても一緒に取り組むことで被害も減らせるはず。ぜひグループで意見も言いあって、学ぶ機会にしてください。

2012年度取り組み報告

この取り組みは地域の実態を自ら動いて把握し、区市町村とのつながりを形成し、消費者行政の活性化・充実を図ろうと、5つの目的を設けて2010年度から始まり、3年目を迎えた。これまでの積み重ねで大きく前進し、懇談報告書からも充実した懇談がうかがえた。年間の取組の成果と課題を共有し、次年度につなげていきましょう。

◆2012年度の取り組み◆ 53区市町村へのアンケート調査(回収率100%)、学習・意見交換会「東京の消費者行政について」(参加37名)、「多摩地域の消費者団体交流会」(参加52名)、「キックオフ集会」(参加109名)、「区市町村消費者行政担当者との懇談」(参加432名)、「報告・交流会」(参加106名)

◆今年度の特徴と成果◆

- ①アンケートでは、活性化基金の活用と次年度予算での対応を取り上げ動向をつかんだ。新項目を設けて基本的事項の確認や新たな動きの状況把握を行った。
- ②年間の各取組みへの参加者が増加。特に懇談参加者は大幅に増えた。これは参加募集を一覧表で一斉に行い、募集期間も十分に取ったこと、地域の消団連への呼びかけの工夫、団体内での学習や周知などによる。
- ③取り組み参加の団体が広がった。
- ④行政との協力関係、信頼関係の進展。
- ⑤東京都の基本データの活用と「見える化」を行った。
- ⑥アンケート結果や懇談報告書から作成の「事例集」の活用。
- ⑦取り組みの報告や紹介の場が広がっている。

◆課題◆

- 懇談での要望事項の反映や自治体の取組の活用状況を次年度確認するなどして、消費者行政の充実を図っていく。
- 気づきや学びを活動に活かしたり、その取組の交流などを通して、目標を推進していく。
- 引き続き、双方が協力できることを伝え合い、実績を重ねて区市町村とのパイプ形成を進める。
- 生協や消費者団体との連携の広がりを、消費者展への可能な参加形態で緩やかな関係づくりを進め、実績づくりを進める。懇談等への参加についても地域差のある消費者団体へ取組意義などを伝え参加を広げる。
- 地域の課題に関心を持つ人を増やし、協働や連携の輪を広げながら、引き続きまちづくりへの力の発揮を目指していく。

♥行政担当者・懇談参加者からのレポート♥



＜葛飾区＞

消費生活センター所長 甘利光一さん

「区制80周年・消費生活展40周年記念事業」

葛飾区では消費生活展が40周年を迎え、区制80周年とともに基金を使って記念事業を行った。記念シンポジウム、イメージキャラクター、啓発グッズ、寸劇上演などで区民にアピールした。今後は「地域連絡会議」立ち上げ情報交換し、リーダー研修、子どもへの出前講座などで消費者教育を大きく進めたい。



＜青梅市＞

防災安全部生活安全課
課長補佐 木村 芳夫さん

青梅市の消費者保護行政の紹介

高齢者の相談が多いことから、「高齢者の消費者被害情報連絡会」を開催し情報交換している。消費者相談は事例集にまとめて配布。西多摩8市町村による相互乗入方式の相談体制をとって広域的に相談を受け、また共催講座も開催している。製品安全関係法による立入検査も各市で分担して実施している。



＜東京南部生協（大田区）＞

大田区消団連 行政との懇談報告

今年の懇談は盛況だった生活展の直後でもあり、また、消団連の定例会の前に設定したことで定例会メンバーの全員出席で行った。参加者が多くもう少し時間がほしかった。今後は消団連をもっと活発にして消費生活センターをもっと市民に知らせていきたい。

東京南部生協
遠島久美子さん

＜コープとうきょう（八王子市）＞

八王子の消費者行政懇談に参加してセンターの認知度の低さや利用の仕方が知られていないこと、そのため基金を使ってさまざまなものを取り入れて力を入れていることがわかった。

南多摩5市は生協での活動エリアと重なるので、5市共催講座のお知らせを行うなど協力ができた。八王子フェスティバルにも初出展し新たなつながりが感じられた。八王子での活動の場を広げたい。



コープとうきょう
飯塚裕子さん

＜立川市消団連＞

立川市懇談報告

立川消団連は行政と良好な関係で連携し、活動してきたが、参加団体の減少と高齢化もあり新しい組織形態を模索している。なかなか見えにくい生協の活動も知りたいと思い懇談に参加した。

「くらしフェスタ立川」にも参加団体を増やしたい。生協にも行政と連携を図ってほしいし、若い生協の方たちにぜひ一緒に活動に加わってほしい。



立川市消団連
五十嵐ちづ子さん

ワークショップの
発表

次年度に活かしたいこと
やってみたいことを
キーワードで発表



《ワークショップ（14グループ）でのキーワード》

- 住民と行政との対話（地域の中での交流）
- 消費者団体の連携
- 身近な消費者啓発
- 継続
- PTA
- 消費者教育（子どもの時からの）
- 団体のつながり
- 情報交換
- 案内・広報
- 行政、他団体との交流、連携、協働
- 消団連の若返り
- 消費生活センターの周知
- 広がり・つながり・発信
- 行政と消費者団体のギブ&テイクの関係づくり
- 学び合う
- 参加団体増加・わかりやすい運営
- 行政と消費者団体、学校現場、自治体などの橋渡し

アンケート結果とまとめ

アンケート回収：65枚

感想・意見（抜粋）

- *参加者のパワーを感じるイベントでした。このパワーを若い世代にも伝え、それぞれの地域の取組に波及できればと思う。
- *皆さんとお話して考えていることは一緒であると感じました。よりよいつながり方ができると良いと思います。

まとめ

今回は消費者庁の方も含め昨年より多くの団体の参加があり、アンケート結果から内容に概ね満足との結果でした。参加者からは、他団体の方を知り、意見交換できてよかった、他の地域や行政の取組が理解できた等の声が寄せられました。しかし懇談報告やワークショップなどについて、もっと工夫が必要とのご意見もあり今後の課題です。継続の必要性と大切さの声もでています。今後さらに多くの団体、参加者と協力・連帯してこの取組をさらに進め、活動にも活かしていきましょう。

閉会挨拶

コープとうきょう理事
小浦道子さん



どの団体からも継続が必要との声が出ています。来年度もより多くの方が参加し行政との連携が深まるように進め方を整理していきます。消費者問題をテーマにするとこれだけ盛り上がるのは自分たちでやっていかねばならないと実感できるからでしょう。来年度も協力しあって取組んでいきましょう。